



JFE

JFEホールディングス株式会社

2024年度第1四半期 決算説明会（インベスターズミーティング）

2024年8月5日

登壇

司会：これより、JFE ホールディングスのインベスターズ・ミーティングを開催させていただきます。本日の出席者は、代表取締役副社長、寺畑雅史、常務執行役員、田倉綱大です。

時間は、プレゼンテーション約 30 分、質疑約 30 分の計 60 分を予定しております。質疑応答は、説明終了後、一括して行います。

それでは、本日発表いたしました決算および業績見通しにつきまして、まずは代表取締役副社長、寺畑より業績の概要をご説明いたします。



業績ハイライト

JFEホールディングス

JFE

- 主に上期における、自動車向けの販売減や海外Gr会社(印)の減益等の影響により、当年度事業利益*は対前回公表▲270億円の3,080億円の見通し。* 棚卸資産評価差等除き
- 7次中計事業利益目標には未達ながら、鉄鋼事業トン当たり利益*10千円は達成見込み。
- 当期利益は2,050億円の見込み(対前年度+76億円、対前回公表▲150億円)。
- 中間配当は50円とする方針を決定。年間配当は110円(前回公表どおり、対前年度+10円)を見込む。

2024年度 1Q決算	事業利益	569億円 (対前年同期▲279億円)
	※棚卸資産 評価差等除き	619億円 (対前年同期▲139億円)
2024年度 見通し	事業利益	2,600億円 (対前年度▲382億円、対前回公表▲400億円)
	※棚卸資産 評価差等除き	3,080億円 (対前年度+118億円、対前回公表▲270億円)
	当期利益	2,050億円 (対前年度+76億円、対前回公表▲150億円)
	棚卸資産評価差等除き 鉄鋼事業トン当たり利益	10千円/t (対前回公表▲1千円/t)
	単独粗鋼生産量	2,300万 t 程度 (対前年度▲45万 t、対前回公表▲40万 t)
	年間配当	110円 (前回公表どおり、対前年度+10円)、中間配当は50円

Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 3

寺畑：まず、24年度の1Qの決算ですが、事業利益は569億円となりました。1Qは、資料にも記載の通り、新たな認証問題等による自動車向けの販売減、及び、インドのJSWで計画修理による粗鋼減や、総選挙前の様子見で公共投資が停滞していたこと等により、前年同期比で減益となり

ました。これら上期における一過性の減益影響により、当年度の棚卸資産評価差等除きの事業利益についても前回公表から 270 億円減益の 3,080 億円となる見込みです。

7 次中期事業利益目標の 3,200 億円には未達となりますが、鉄鋼事業のトン当たり利益 1 万円については達成の見込みです。また、当期利益は対前年度で 76 億円増益の 2,050 億円を見込んでおります。

これらを踏まえ、年間の配当は前回の公表どおり 110 円を見込んでおり、中間配当はこれに基づき 50 円という方針を本日の取締役会で決議いたしました。



2024年度 1Q決算

JFEホールディングス

JFE

▶ **当期1Q事業利益は569億円**(対前年同期▲279億円)

(億円)	2023年度 実績 4-6月	2024年度 実績 4月-6月	増減 4月-6月
売上収益	12,620	12,111	▲509
事業利益 [棚卸資産評価差等除き]	848 [758]	569 [619]	▲279 [▲139]
金融損益	▲49	▲51	▲2
セグメント利益	798	517	▲281
個別開示項目	-	▲122*	▲122
税引前利益	798	395	▲403
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲202	▲120	82
当期利益	596	275	▲321

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの
事業利益(棚卸資産評価差等除き)：連結事業利益から、鉄鋼事業の棚卸資産評価差等を除いたもの

* 子会社（ジエコス(株)）株式売却に関連する損失

Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

5

田倉：それでは、決算の内容についてご説明いたします。

5 ページに 1Q の決算を示しております。

売上収益は 1 兆 2,111 億円、事業利益は前年同期から 279 億円減益の 569 億円となりました。実力ベースの事業利益はその下に記載の通り 619 億円と前年同期比 139 億円の減益となりました。当期利益は 275 億円と、前年同期比 321 億円の減益です。

なお、中段に記載の個別開示項目マイナス 122 億円につきましては、前回の発表のときにご説明しました通り、ジェコス株の売却に関連する損失が生じております。



2024年度 1Q決算 セグメント別

JFEホールディングス

(億円)	2023年度 実績 4-6月	2024年度 実績 4月-6月	増減 4月-6月	増減内容
鉄鋼事業	9,172	8,606	▲566	
エンジニアリング事業	1,111	1,238	127	
商社事業	3,703	3,583	▲120	
調整額	▲1,367	▲1,316	51	
売上収益	12,620	12,111	▲509	
事業利益(A)	848	569	▲279	
金融損益(B)	▲49	▲51	▲2	
鉄鋼事業	681	315	▲366	次頁にて説明
エンジニアリング事業	▲1	40	41	売上収益の増加 および工事構成差
商社事業	147	115	▲32	米州・国内建材で 減益
調整額	▲29	47	76	
セグメント利益(A+B)	798	517	▲281	

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

6

6 ページは 1Q の決算を事業別に展開したものです。

鉄鋼事業のセグメント利益は 315 億円と、前年同期比で 366 億円の減益となっており、こちらは次ページで詳細をご説明いたします。エンジニアリング事業は、売上収益の増加、及び、工事構成差の影響でセグメント利益は前年同期比 41 億円増益の 40 億円となりました。

一方、商社事業につきましては、前年同期と比べると、米国におけるスプレッドの縮小や、国内建材の減益が影響し、セグメント利益は前年同期比 32 億円減益の 115 億円となりました。



2023年度4-6月⇒2024年度4-6月

JFEスチール

セグメント利益 ▲366億円内訳

				(億円)			
	単位	2023年度 4-6月	2024年度 4-6月	JFEスチール	2023年度 4-6月	2024年度 4-6月	増減 対前年同期
単独 粗鋼生産量	万t	605	548				
単独 出荷量	万t	523	470	セグメント 利益	681	315	▲366
鋼材 平均価格	千円/t	128.5	139.2	棚卸資産評 価差等除き	591	365	▲226
為替レート	円/ドル	135.8	155.0				

1. コスト	+180	・ 構造改革効果+110 ・ 操業改善 + 70
2. 数量・構成	▲80	・ 粗鋼605万t→548万t
3. スプレッド*	▲80	・ 海外市況影響
4. 棚卸資産評価差等	▲140	・ 棚卸資産評価差 + 50 (▲50→±0) ・ キャリーオーバー影響▲180 (+50→▲130) ・ 為替換算差▲10 (+90→+80)
5. その他	▲246	・ Gr会社▲150

* 諸物価(金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等)を含むスプレッド

Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

7

こちらは、JFE スチールにおける1Qの前年同期との差の分析です。

コスト削減につきましては、当初想定していた通り、構造改革効果110億円等によりプラス180億円となりました。数量・構成につきましては、粗鋼生産が57万トン減少したことによるマイナスの影響と、品種構成の改善によるプラスの影響が打ち消し合い、マイナス80億円です。

スプレッドにつきましては、海外市況の影響、及び円安による原料の影響が大きく、マイナス80億円です。棚卸資産評価差等は、キャリーオーバー影響を中心にマイナス140億円です。

その他につきましては、JSW や米国のCSI等の海外グループ会社の減益、及び、構造改革に伴う養生費用等が含まれており、合計でマイナス246億円です。



2024年度 業績見通し

JFE

▶ 年間見通しは、**事業利益2,600億円**(対前回▲400億円、対前年度▲382億円)、
当期利益2,050億円(対前回▲150億円、対前年度+76億円)を見込む。

(億円)	2023年度 実績		2024年度 見通し(前回)		2024年度 見通し(今回)		増減 (対前年度)		増減 (対前回公表)	
	上期	年間	年間	年間	上期	年間	年間	年間	年間	年間
売上収益	25,765	51,746	53,900	24,600	52,400	654	▲1,500			
事業利益 [棚卸資産評価差等除き]	1,643 [1,653]	2,982 [2,962]	3,000 [3,350]	850 [1,130]	2,600 [3,080]	▲382 [118]	▲400 [▲270]			
金融損益	▲89	▲186	▲200	▲100	▲200	▲14	0			
セグメント利益	1,553	2,796	2,800	750	2,400	▲396	▲400			
個別開示項目	-	▲112	300	▲100*	350*	462	50			
税引前利益	1,553	2,683	3,100	650	2,750	67	▲350			
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲452	▲709	▲900	▲200	▲700	9	200			
当期利益	1,100	1,974	2,200	450	2,050	76	▲150			

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの
事業利益(棚卸資産評価差等除き)：連結事業利益から、鉄鋼事業の棚卸資産評価差等を除いたもの

* 子会社株式(ジェコス(株))売却に関連する損失、土地売却益等
Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

9

こちらは通期の業績見通しです。

まず、売上収益は5兆2,400億円と、前回公表から1,500億円の減収見込みです。こちらは海外市況の低迷が続いていることや、数量の減少等によるものです。

事業利益、セグメント利益はいずれも前回公表から400億円の減益見込みです。当期利益については前回公表から150億円減益の2,050億円の見通しです。

なお、個別開示項目として、先ほどご説明しましたジェコス株の売却による損失に加え、2Q、及び、下期に土地売却を織り込み、通期で350億円のプラスを見込んでおります。



2024年度 業績見通し セグメント別

(億円)	2023年度 実績		2024年度 見通し(前回)	2024年度 見通し(今回)		増減 (対前年度)	増減 (対前回公表)
	上期	年間	年間	上期	年間	年間	年間
鉄鋼事業	18,658	37,160	36,700	17,800	36,600	▲560	▲100
エンジニアリング事業	2,484	5,399	5,800	2,600	5,800	401	0
商社事業	7,420	14,764	16,500	7,000	15,500	736	▲1,000
調整額	▲2,797	▲5,578	▲5,100	▲2,800	▲5,500	78	▲400
売上収益	25,765	51,746	53,900	24,600	52,400	654	▲1,500
事業利益(A)	1,643	2,982	3,000	850	2,600	▲382	▲400
金融損益(B)	▲89	▲186	▲200	▲100	▲200	▲14	0
鉄鋼事業	1,228	2,027	2,050	400	1,650	▲377	▲400
エンジニアリング事業	87	243	200	80	200	▲43	0
商社事業	268	489	500	220	500	11	0
調整額	▲31	35	50	50	50	15	0
セグメント利益(A+B)	1,553	2,796	2,800	750	2,400	▲396	▲400

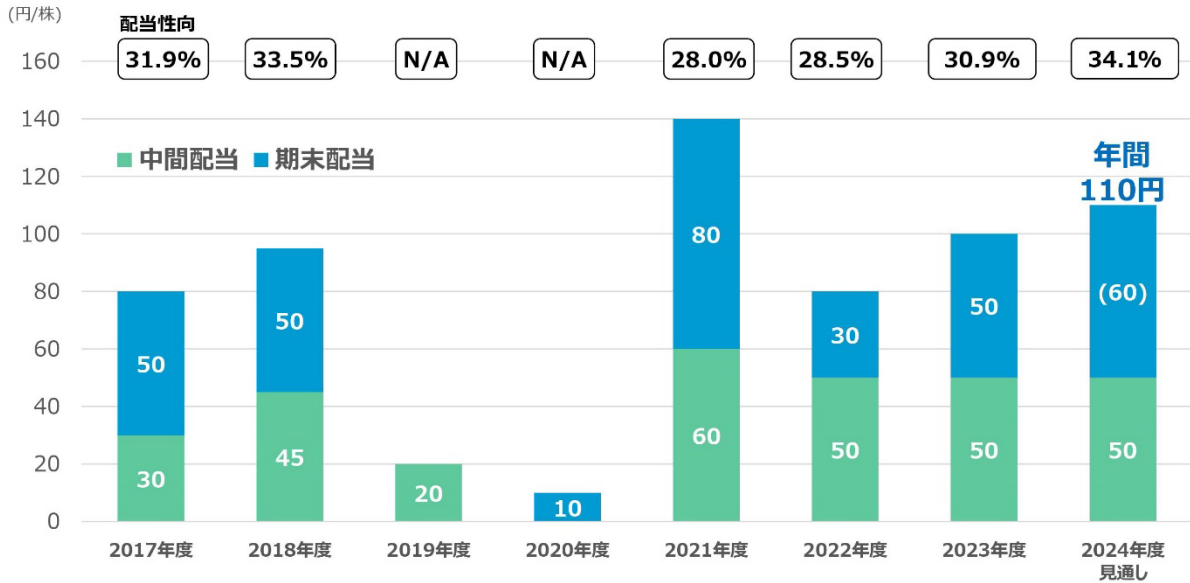
事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

10 ページは通期の業績見通しを事業別で見たものです。

鉄鋼事業で前回公表比 400 億円減益の 1,650 億円、エンジニアリング事業と商社事業は前回公表通り、それぞれ 200 億円と 500 億円の益を見込んでおります。

- 2024年度の中間配当については、**1株当たり50円とする方針**を取締役会で決議。
- 年間配当については、配当性向30%程度の方針を踏まえ、**1株当たり110円の見通し（前回公表どおり、対前年度+10円）**。



Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

11 ページは冒頭でご説明した通り、中間配当 50 円という方針を取締役会で決議いたしました。年間配当の 110 円の見通しは、前回の公表通りです。

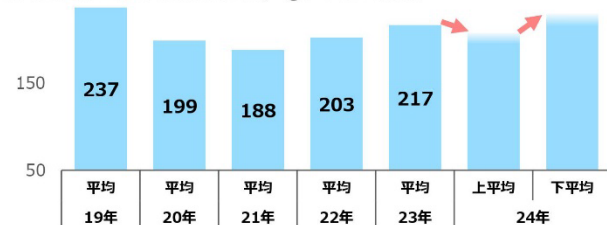


足元の事業環境認識（国内鋼材需要）

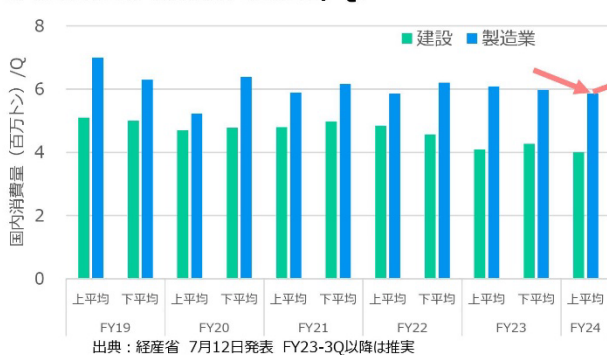
JFE

- **自動車分野**の需要は堅調だが、**新たな認証問題等で減影響**あり。**土木建築分野**では、**人手不足や資材高騰の影響により、需要の先送りが継続**。
- 上期から下期にかけて、**鋼材需要は自動車向け中心に改善する見通し**。

【自動車生産台数見通し/Q】 単位：万台 下期にかけて回復を見込む



【国内普通鋼 鋼材消費見通し/Q】



【分野別動向】

自動車	<ul style="list-style-type: none"> • 新たな品質・認証問題の発生等による影響はあるものの、堅調な需要を背景に生産意欲は高い。 • 生産計画の動向を引き続き注視。
造船	<ul style="list-style-type: none"> • 資材高騰や人手不足の影響はあるものの、国内造船各社は約3年分の受注残を確保。 • 今後2～3年は足元の水準が安定的に継続する見通し。
その他製造業	<ul style="list-style-type: none"> • 建設機械は、欧州・アジアでの軟化傾向に加え、北米向けでピークアウト感が出ており、動向を注視。 • 産業機械は、金利上昇、インフレ継続などの先行き不透明感から低調。底打ちの観測も出ているが、目立った回復の兆しは現状見えない。
建築	<ul style="list-style-type: none"> • 非住宅分野は、比較的堅調であった大型案件でも資材高騰や人手不足により需要先送りの動き。 • 建設コストや金利の上昇等を背景とした建設投資・住宅取得マインドへの影響等もあり、低調な状況が継続。
土木	<ul style="list-style-type: none"> • 引き続き高水準の予算措置がなされており、下期には例年季節性の増加もあるものの、資材等コストの上昇や人手不足等の影響を受ける見込み。

Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

続いて鉄鋼事業の事業環境についてご説明いたします。

自動車分野では、需要自体は堅調ですが、上期に新たな認証問題が発覚したことによって、減影響が出ております。下期にかけては自動車向けの鋼材需要自体は回復すると考えております。

下にあります自動車生産台数の見通しのグラフで、四半期ごとの生産台数の平均を示しております。23年度は、22年度の半導体不足からの回復基調で順調に増えてきておりましたが、4Qに認証問題で大幅に減少し、結果として四半期当たり平均217万台でした。24年度は、そこからの回復を織り込み、23年度よりは若干増えたレベルを想定しておりましたが、こちらのグラフの通り、24年度の上期は23年度の平均を下回る見通しです。

下期の水準は当初見通しから大きく変えておりませんが、上期と比べると改善すると見込んでおります。結果として、年度合計では23年度と同程度を見込んでおります。

それ以外の分野は、大きな変化はありませんが、まず、造船については今後2～3年、足元の水準が安定的に継続する見通しです。建機につきましては、欧州・アジアで軟化傾向というのはお伝えしていた通りですが、北米向けで若干のピークアウト感が出ていると見ております。

建築、土木につきましては、人手不足、資材高騰の影響から需要の先送りが継続するというのが今の見通しです。

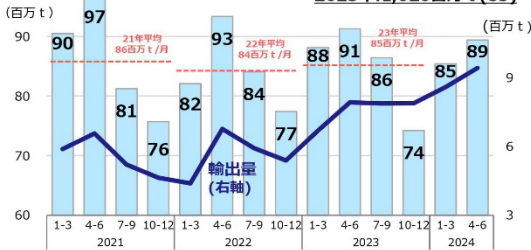


足元の事業環境認識（海外鋼材需要）

JFE

➤ 内需が低迷する中国における高位生産の継続と、輸出増により、**鋼材需給の緩みや市況の停滞が継続**。当面の間、**足元の厳しい環境が継続すると想定**。

【中国 粗鋼生産・鋼材輸出量】 年間粗鋼量(月当り)
2021年:1,033百万t (86)
2022年:1,013百万t (84)
2023年:1,020百万t (85)



【中国鋼材市況】



【2024年暦年実質GDP成長率見通し】

(矢印は前回見通しからの変動)

	世界平均	米国	中国	インド	ASEAN-5
参考:2023年	3.3%	2.5%	5.2%	8.2%	4.1%
24/4見通し	3.2%	2.7%	4.6%	6.8%	4.5%
24/7見通し	3.2% ➡	2.6% ➡	5.0% ➡	7.0% ➡	4.5% ➡

出典：IMF World Economic Outlook Update 24/4公表・24/7公表

*ASEAN5：タイ・マレーシア・インドネシア・フィリピン・シンガポール

【分野別動向】

薄板	・中国の内需低迷・高位生産継続・輸出材増の影響により、 アジア圏を中心に市況は低迷 。中国政府の実効性ある景気刺激策・生産抑制策が待たれるものの、 需要・市況の回復には一定の時間を要するもの と想定。
自動車	・中国は生産を伸ばすも、足元では 日系OEMにシェアの低下 が見られる。 ・ASEANは高金利・ローン審査厳格化影響が長期化しているが、上期から下期にかけては 回復を見込む 。 ・インドでは高成長を背景として 需要は堅調 。
造船	・中韓造船会社は、人手不足影響は残るものの 安定した契約残を確保 。
エネルギー	・OPEC+の動向等リスク要素は散見されるものの、世界経済の緩やかな成長や地政学的緊張状態の高まりを背景に、 エネルギー安定供給コースは引き続き強く、全体的な投資は堅調に推移するもの と見られる。

Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

続きまして、海外の事業環境です。

内需が低迷する中国の影響を受けまして、鋼材需給の緩み、市況の停滞が継続しており、当面、この状況が継続すると見込んでおります。

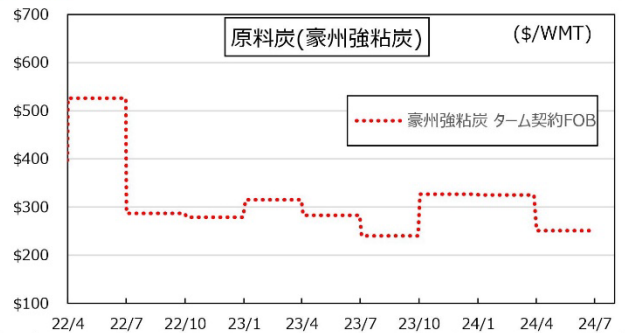
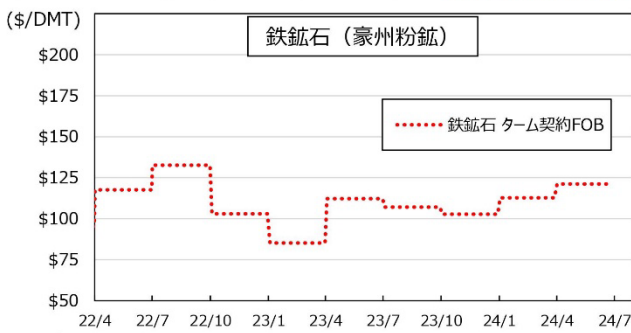
分野別の動向の詳細は割愛いたしますが、2段目の自動車分野は、前年度の下期あたりからASEANでローン審査の厳格化の影響が出ております。足元、底打ちの兆しも出ており、下期にかけては緩やかな回復を見込んでおります。



足元の原料市況動向

JFE

- 主原料
 - 鉄鉱石：中国鋼材需要に依然として力強さは見られず、鉄鉱石市況は**当面足元レベルで推移**するものと想定。
 - 原料炭：サプライヤーの生産低迷や、総選挙後のインドにおけるインフラ需要増期待等の上昇要因はあるものの、**当面は足元レベルが継続**するものと想定。豪州強粘炭炭鉱で発生した火災の今後の市況への影響は注視する。
- 金属
 - 中国の景気・鉄鋼需要回復の遅れにより、需要は低調だが、供給能力削減・減産による需給引き締め等により、**一部銘柄の市況は上昇**。



ターム契約 FOB	2023 年度				2024 年度	
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月
\$/DMT	112	107	103	113	121	101

ターム契約 FOB	2023 年度				2024 年度	
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月
\$/WMT	283	240	327	325	251	-

Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

続きまして原料市況の動向です。

鉄鉱石については当面は足元レベル、つまり、100 ドル近辺で推移するものと想定しております。

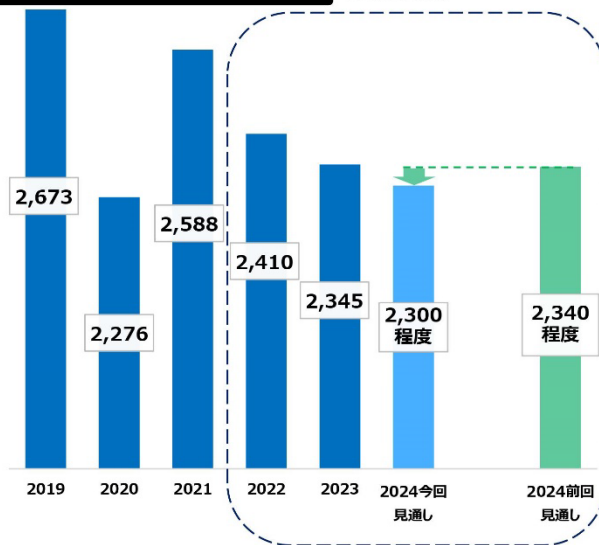
原料炭につきましても、一部上昇リスクはありますが、当面は足元レベル、つまり、200 ドル台半ば辺りが継続すると想定しております。



- ▶ 下期は需要改善を見込むも、上期の国内外での自動車向け減影響等により、**単独粗鋼生産量は年間2,300万 t 程度に留まる見通し。(対前回見通し▲40万 t 減)**
- ▶ 引き続き量から質への転換を目指し、高付加価値品化を志向（7次中期計画目標通り、24年度は比率50%を見込む）。**倉敷電磁鋼板の能力増強は予定通り上期に完工。**

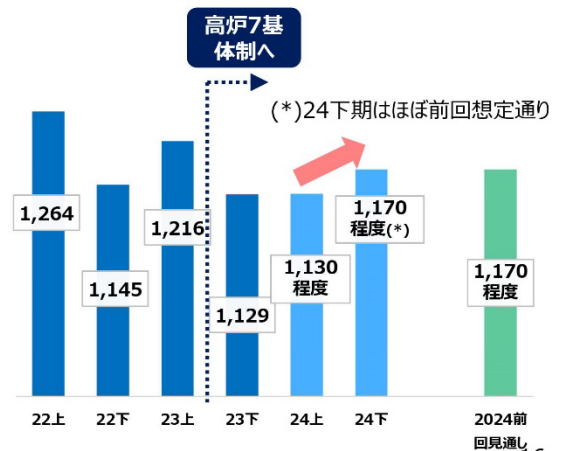
単独粗鋼生産量<年間>

単位：万t



単独粗鋼生産量<半期>

単位：万t



Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 平均 16

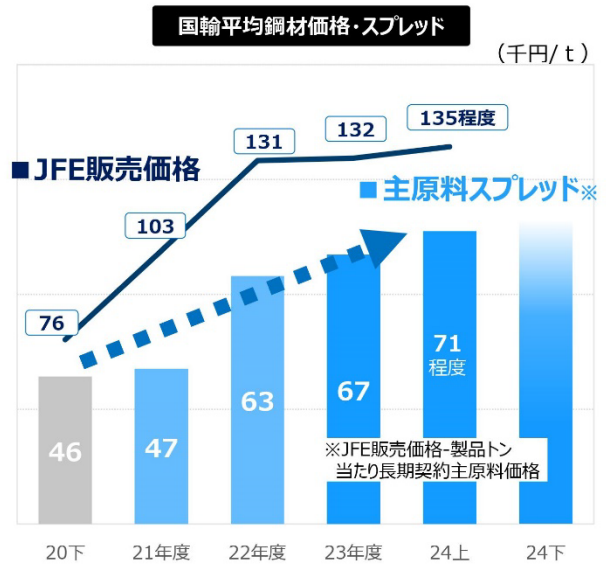
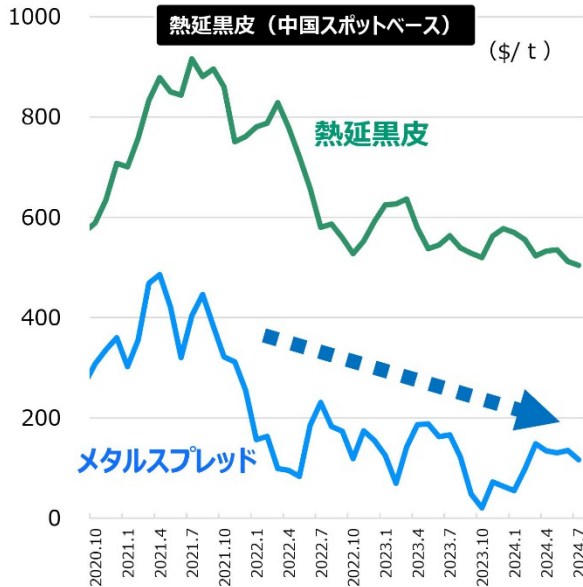
続いて、粗鋼生産量の見通しです。

先ほどご説明したとおり、上期の国内外での自動車向けの減影響を受けまして、粗鋼生産量は年間で2,300万トン程度、前回見通しから40万トン減を見込んでおります。

右下に半期ごとの生産量の推移を示しておりますが、24年度上期は結果的に23年度下期と同水準を想定しております。24年度下期につきましては、当初想定していた1,170万トン程度に回復し、年度では2,300万トン程度となる見通しです。

なお、倉敷の電磁鋼板の能力増強は予定通り、上期に完工する予定です。

- ▶ 諸物価の価格転嫁、エキストラ見直し、価格水準の是正を引き続き推進し、販売価格は改善。
- ▶ 24年度の諸物価込みスプレッド*は、海外市況低迷影響はあるが、**物流費、労務費等のコストアップへの対応を推進**し、23年度並みを見込む。*金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等を含むスプレッド



Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

こちらは、販売価格の改善について示しております。

市況の低迷は現時点でも続いておりますが、諸物価の価格転嫁、価格水準の是正は引き続き推進しております。

24年度上期の平均販売価格は、23年度の平均13万2,000円から若干増え、13万5,000円程度を見込んでおります。主原料スプレッドは棒グラフに示している通り、23年度と比較して改善することで、物流費、労務費の上昇影響を吸収し、諸物価込みのスプレッドは23年度並みを維持できる見通しです。



JFEスチール 2024年度 業績見通し

	単位	2023年度					2024年度					2024年度 前回 見通し
		4-6月	7-9月	上期	下期	年間	4-6月	7-9月	上期	下期	年間	
		売上収益	億円	9,172	9,486	18,658	18,502	37,160	8,606	9,194	17,800	
セグメント利益	億円	681	547	1,228	798	2,027	315	85	400	1,250	1,650	2,050
棚卸資産評価 差等除き*	億円	591	647	1,238	768	2,007	365	315	680	1,450	2,130	2,400
単独 粗鋼生産量	万t	605	611	1,216	1,129	2,345	548	580 程度	1,130 程度	1,170 程度	2,300 程度	2,340 程度
連結 粗鋼生産量	万t	638	647	1,285	1,195	2,480	580	610 程度	1,190 程度			
単独 鋼材出荷量	万t	523	542	1,065	1,012	2,077	470	520 程度	990 程度			
鋼材輸出比率 (単独・金額 [^] -ス)	%	44.2	44.2	44.2	41.5	42.9	40.6	45 程度	43 程度			
鋼材平均価格	千円/ t	128.5	130.1	129.3	133.8	131.5	139.2	132 程度	135 程度			
為替レート	円/ドル	135.8	144.1	139.9	147.7	143.8	155.0	157 程度	156 程度	155 程度	156 程度	150 程度
期末為替レート	円/ドル	145.0	149.6	149.6	151.4	151.4	161.1	155 程度	155 程度	155 程度	155 程度	150 程度

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリアオーバー、為替換算差を除いた損益

Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 18

こちらでは、業績見通しの諸元を記載しております。

詳細は割愛しますが、中段の鋼材輸出比率について、4-6月は40.6%でしたが、7-9月は45%程度になる見通しです。これは国内外の自動車向けが想定よりも低位ということを受け、海外のライアンス向けに数量を増やしたことが要因となりますが、下期にかけて鋼材輸出比率は戻ってくると想定しております。

鋼材平均価格も4-6月の13万9,200円から7-9月は13万2,000円程度と、輸出比率の上昇、品種構成の悪化等を受けて、7,000円程度下がる見通しです。こちら下期にかけて戻ってくると考えております。



2024年度 セグメント利益 対前回見通し ▲400億円内訳

JFE

▶ 主に上期における、自動車向けの販売減や海外Gr会社（印）の減益等を見込む。

JFEスチール	2024年度 前回見通し	2024年度 今回見通し	増減 対前回
セグメント利益	2,050	1,650	▲400
棚卸資産評価差等除き	2,400	2,130	▲270

1. コスト	±0	
2. 数量・構成	▲150	・粗鋼 2,340万t程度→2,300万t程度
3. スプレッド*	▲50	
4. 棚卸資産評価差等	▲130	・棚卸資産評価差▲80 (▲120→▲200) ・キャリアオーバー影響▲100 (▲230→▲330) ・為替換算差+50 (±0→+50)
5. その他	▲70	・Gr会社▲70

* 諸物価(金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等)を含むスプレッド

Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

19

こちらは対前回見通し 400 億円の減益の内訳です。

コスト削減については当初見通しから変化はありません。数量・構成ですが、自動車向け中心に販売が減っているということで、数量減の影響と構成の悪化で合わせてマイナス 150 億円を織り込んでおります。

スプレッドにつきましては、前回の見通しから原料炭の価格が下がっておりますが、海外市況の悪化が若干上回り、マイナス 50 億円です。棚卸資産評価差等は原料価格の下落の影響でマイナス 130 億円です。

その他は、マイナス 70 億円の見込みですが、これは海外のグループ会社中心に差異が出ております。特に JSW が 4-6 月に計画定修の影響もあり大きく減産となり、当初想定よりも収益が落ち込んだことを反映しております。

なお、7 月以降は、この定修も完了しておりますし、ヴィジャヤナガルにおける熱延ミルの増強も寄与してくると見込んでいます。インド経済も総選挙が終わって、一時停滞していた公共工事が再開するなど復調が期待できると考えております。



2024年度 セグメント利益 対前年度 ▲377億円内訳

JFEスチール	2023年度 実績	2024年度 見通し	(億円) 増減 対前年度
セグメント利益	2,027	1,650	▲377
棚卸資産評価差等除き	2,007	2,130	+123

1. コスト	+420	<ul style="list-style-type: none"> 構造改革効果+250 操業改善+170
2. 数量・構成	▲50	粗鋼 2,345万t→2,300万t程度
3. スプレッド*	±0	
4. 棚卸資産評価差等	▲500	<ul style="list-style-type: none"> 棚卸資産評価差▲250 (+50→▲200) キャリーオーバー影響▲350 (+20→▲330) 為替換算差▲100 (+150→+50) 構造改革費用(一過性)+200 (▲200→±0)
5. その他	▲247	Gr会社▲110

* 諸物価(金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等)を含むスプレッド

Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

20

こちらは対前年度比較で、セグメント利益は377億円の減益を見込んでおります。

詳細は割愛しますが、前年度と比べて、海外市況の低迷、数量減、諸物価上昇というマイナス要因はありますが、構造改革によるコストダウンと販価改善によって実力ベースの損益は123億円改善する見通しです。



2024年度上期⇒下期 セグメント利益 +850億円内訳

JFE

- ▶ 下期には自動車向けの数量回復や高付加価値品販売拡大、および経済活動水準向上が期待されるインドでのGr会社収益改善等を見込む。

JFEスチール	2024年度 見通し			増減 2024上→下
	上期 見通し	下期 見通し	年間	
セグメント利益	400	1,250	1,650	+850
棚卸資産評価差等除き	680	1,450	2,130	+770
1. コスト	+100			
2. 数量・構成	+240			<ul style="list-style-type: none"> 粗鋼 1,130万t程度→1,170万t程度 自動車数量回復、高付加価値品拡大(電磁・風力等)
3. スプレッド*	+110			<ul style="list-style-type: none"> 販価改善活動継続によりスプレッド改善
4. 棚卸資産評価差等	+80			<ul style="list-style-type: none"> 棚卸資産評価差▲200 (±0→▲200) キャリーオーバー影響+330 (▲330→±0) 為替換算差▲50 (+50→±0)
5. その他	+320			<ul style="list-style-type: none"> Gr会社+250

* 諸物価(金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等)を含むスプレッド

Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

21

こちらは24年度上期と下期の差異、プラス850億円の内訳です。

コスト削減は、当初想定通り操業改善によるコストダウン等でプラス100億円の見通しです。

数量・構成につきましては、粗鋼が40万トン増えることによる数量影響に加え、自動車向けの数量回復、電磁鋼板の能力増強、風力発電用にアジアだけでなく、欧州でも引き合いが高まっている大単重厚板等による品種構成の改善を合わせて、240億円のプラスを見込んでおります。

スプレッドにつきましては、上期に比べて鉄鉱石が下落すると見込んでおりますが、販売価格の下落を抑制し、110億円のプラスを見込んでおります。また、棚卸資産評価差等は80億円のプラスを見込んでおります。

その他につきましては、JSWの改善をはじめ、国内外のグループ会社の緩やかな回復を踏まえ、グループ会社トータルで250億円の収益改善を見込んでおります。それに加えて、構造改革に伴う養生費用も段階的に減少し、約70億円の改善を想定しており、これらを踏まえて、その他は320億のプラスの見込みです。



鉄鋼事業の収益状況

JFE

- 主に上期の一過的な要因により、通期では中期目標2,300億円に到達しない見通し。
ただし、トン当たり利益は中期目標10千円/トンを維持。
- 下期は、コストダウン、電磁鋼板の能力増強等の結果、5月公表想定並みの収益を見込む。

鉄鋼事業業績推移（評価差除きセグメント利益）

23上→23下

①数量減（自動車等）、
海外市況減速、原料炭
価格上昇等で収益悪化

単位：億円

1,238

23上実績

23下→24上

②（前回公表時）販価改
善、自動車販売増により、
収益改善を想定

③（今回）自動車向けの
販売減や海外グループ会社
（印）による減益

768

23下実績

24上→24下

④（今回）国内自動
車生産の回復、総選挙
後のインド経済活動水
準向上・鋼材需要回復
を見込む

680

24上公表

1,450

24下公表

■ 下期は、年換算
2,300億円の利益水
準を超えるレベル
■ 8次中期計画・長期
ビジョンでの更なる利益
成長を目指す

長期ビジョン
利益倍増8次中期
計画

Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 22

こちらは、これまでのご説明を図で整理したものです。

下に半期ごとの収益の推移を示しております。23年度上期から23年度下期にかけて、今年1月から発覚した認証問題による数量減や、海外市況の減速を受けて減益となりました。今年度の上期は、前回公表時点では自動車の販売が回復することによる収益改善を想定しておりましたが、新たな認証問題、JSWの減益等により、実力ベースの収益は680億円となる見込みです。

下期にかけては、当初想定していたコストダウン、電磁鋼板能力増強を踏まえ、前回公表時の想定並みの収益を見込んでおり、下期だけで見れば年換算では2,300億円を超える見通しです。24年度上下の合計では、中期目標の2,300億円には到達しませんが、トン当たりの利益は中期目標の1万円を確保する見通しです。



■ 足元の事業環境/損益概況

- 「Waste to Resource分野」、「基幹インフラ分野」で受注拡大を見込む。
- 年間セグメント利益は、**200億円**を見込む（前回見通しどおり）。

■ 業績見通し

(億円)	23年度実績		24年度見通し		増減 (対前年同期)	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
受注高 ※	2,697	5,630	2,400	6,000	▲297	370
売上収益	2,484	5,399	2,600	5,800	116	401
セグメント利益	87	243	80	200	▲7	▲43

※24年度より自治体等から受託したごみ処理施設等の長期O&M契約の受注計上方法を変更。
旧計上方法で計算した場合、24年度の年間受注高見通しは5,900億円。

続きまして、エンジニアリング事業です。

受注拡大を見込んでおりますが、今年度の年間セグメント利益は、前回見通し通りの200億円の
見込みです。



2024年度 業績見通し

JFE

■ 足元の事業環境/損益概況

- 上期は米州・中国の需要低迷が継続し、前年同期比▲48億円の220億円の見通し。
- 下期は自動車向け等で国内需要の緩やかな回復を見込むほか、Studco*の利益取り込み等もあり、**年間セグメント利益は前回公表通り500億円の見通し。**
(前年度比+11億円、中期計画比+100億円)

* 2024年5月にM&Aで取得した米、豪の建材加工販売会社

■ 業績見通し

(億円)	23年度実績		24年度見通し		増減 (対前年同期)	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	7,420	14,764	7,000	15,500	▲420	736
セグメント利益	268	489	220	500	▲48	11

続きまして、JFE 商事です。

上期につきましては、前年同期と比較しますと、米国・中国の需要低迷により、前年同期比で48億円減の220億円の見通しです。

下期については、自動車向け中心に緩やかな回復を見込んでいることに加え、今年5月に買収しましたStudco社の利益の取り込みもあり、年間のセグメント利益は当初見通し通りの500億円の見込みです。



世界初の液化水素サプライチェーンに向けた商用化実証が大きく前進

～JFEスチールと日本水素エネルギー(株)*との間で土地の賃貸契約を締結～

2024/7/25リリース

扇島がGI事業「液化水素サプライチェーンの商用化実証」の水素受入基地に決定。

➡ 扇島を起点に日本の水素社会実現を先導し、カーボンニュートラルの実現に貢献。

*川崎重工業(株): 36.6%・岩谷産業(株): 33.4%・(株)INPEX: 30%



- **28年度土地利用開始に向け、扇島の大規模土地利用転換が始動。**川崎市と連携し、実証開始に向けて道路・交通アクセスや液化水素運搬船の受入環境の整備を推進。
- 商用実証後は、**当社自家発電所での水素導入や、水素供給で発生する冷熱活用を検討する他、水素サプライチェーンへの事業参画も視野におく。**

Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

28

トピックスとして、2点ご説明いたします。

すでに発表していますが、扇島がGI事業、液化水素サプライチェーンの商用化実証の水素受入基地として決定いたしました。28年度からの土地利用開始に向け、扇島の大規模土地利用転換が始まっていきます。

なお、商用実証されたあとは、当社自家発電所での水素導入や、水素供給で発生する冷熱の活用等も検討する他、水素サプライチェーンへの事業参画も視野においております。

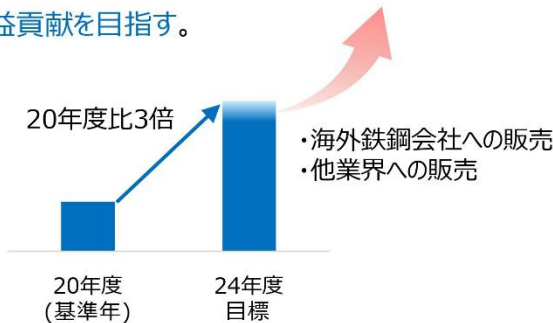


JFE

- 越FHS向けに連続鋳造機トラブル早期検知システム「BO-Eye™」を初受注 2024/5/22リリース
 - 印JSWで高炉向けクラウド型データサイエンス技術(高炉CPS*)の実証運用開始 2024/7/1リリース
- *CPS : Cyber Physical System

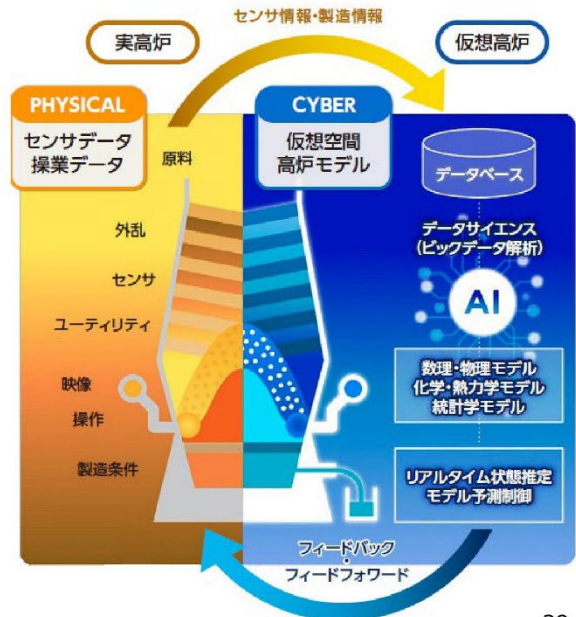
■ ソリューションビジネスの利益貢献

従来の操業支援に加え、DS技術を活用した新規アイテムの海外鉄鋼会社や他業界への販売により、次期中期以降さらなる利益貢献を目指す。



■ 高炉CPS【令和5年度大河内記念技術賞受賞】

- ・DSを用いた仮想空間高炉モデルにより内部状態をリアルタイム可視化、操業の高効率化・安定化を実現。
- ・当社が構築したソリューション提供プラットフォームを經由して、海外初のモデルとしてJSW社に導入。



Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

29

最後に、ソリューションビジネス、JFE Resolus の海外展開の推進についてです。

ベトナムの FHS 向けに、連鋳機トラブルの早期検知システムを初受注しました。また、インドの JSW で高炉向けの CPS の実証運用が開始されました。

ソリューションビジネスは、7次中期計画で20年度比3倍の収益貢献を目指しておりますが、こういった海外展開を今後、拡大させることで次期中期以降、さらなる利益貢献を目指しております。

当社からの説明は以上です。

質疑応答

司会：それでは、質疑応答に移りたいと思います。

質問者：19～21 ページの数量・構成について、前回見通しとの比較では数量変化に対してトンあたり4万円弱くらいの減益、対前年度では1万円程度の減益、上期下期比較では6万円の増益要因となっています。例えば、単価の高い自動車用鋼板が減って輸出が増えるからとか、下期は電磁鋼板や自動車用鋼板が増えるからというご説明だと思いましたが、それぞれの分析で数量効果がかなり違う点に関してご説明ください。

JFE：例えば19 ページについて、対前回見通しで150億円のマイナスのうち、数量40万トン減による影響はおよそ100億円で、残りは自動車向けが減った等の構成差の影響になります。また、21 ページの数量・構成240億円のプラスについては、40万トンの数量増ですが、数量の影響はおよそ半分の100億円強で、残りは構成差の影響を見込んでいます。

質問者：21 ページに関して、上期の利益が数量減で弱く、下期に大きく改善する見通しとなっています。コスト削減および数量・構成の改善は理解しましたが、スプレッドについて、鉄鉱石がある程度下がっていく中で、ベース価格アップなどを顧客と交渉し、ひも付き分野でスプレッド拡大を見込むのか、それとも市況品のスプレッド拡大を見込んでいるのか、解説いただきたいです。

また、5番目のその他がプラス320億円とかなり大きいですが、これはグループ会社ということで、JSWなどの改善を見込んでいるのでしょうか。

JFE：スプレッドについては、主原料価格が低下する中、輸出価格はある程度低下を見込んでいますが、国内販価については諸物価のコストも踏まえて交渉し、できるだけ落とさないことで、全体で110億円のプラスに持っていきたいと考えています。

JFE：17 ページにあるように、販売価格は24年度上期に13万5,000円程度への改善を見込んでいます。これは、主原料以外の物流費、労務費等のコストアップへの対応で、今年度始まる前にトン1万円の値上げを掲げましたが、その活動がある程度、軌道に乗っているとご理解いただければと思います。

その他の項目については、海外グループ会社で大きくプラスを見ており、JSWだけでも100億円を超える水準での増益を見込んでいます。

質問者：従来は減産するとコストアップになっていましたが、昨年、京浜の高炉を恒久停止したことで、下方弾力性が出てきたと評価できるのでしょうか。

JFE：ご指摘のとおり、構造改革の効果で対応できている部分が大きいです。

質問者：為替レートが143円ぐらいになっていますが、このままの場合には御社の損益にどのような影響があるのか、考え方を教えてください。為替フローはプラスと思いますが、棚卸資産評価差などは、円高はマイナスに利きそうな感じがするのと、販売価格も下がりそうな感じがします。

JFE：フローで為替1円円高につき年間23億円、半期では10億円強のプラスの影響がある一方、ストックで10億ドルの資産があり、1円円高で10億円程度のマイナス効果となるため、フローとストックが相殺されて影響は小さいですが、ご指摘のように、国内販価については、為替フローも含めて販売価格に転嫁する活動をしているので、その影響はあると思います。

また、当社は汎用鋼については、量から質への転換ということで量を減らしてはいますが、円高による輸入鋼材価格の下落リスクがマーケットにどのような影響を与えるか、など、そういった間接的な影響も考えられます。

加えて、輸出企業自体の経営への影響等もあるので、今の段階では定量的に申し上げられませんが、今後、精査していかなければいけないと考えています。

質問者：自動車の認証不正の問題は確かに一時的だろうと思いますが、一方で、日系自動車メーカーの中国での苦戦やASEANでもやや弱めな状況は、ある程度続く可能性があるかと思っています。それに対して、御社はどうお考えか教えてください。

JFE：年初の認証問題については、前回の公表のときにすでに織り込んでいましたが、前回の公表のあとに出てきた認証問題があります。これが上期に影響を与えていますが、下期以降には回復してくると見えています。

一方で海外については、中国で日系自動車シェアを落としており、これも当然、影響がないとは申し上げませんが、GJSSについては、従来から申し上げているとおり、日系自動車だけではなく販路の拡大を進めております。また、タイ、インドネシアについては、下期には緩やかに回復してくるという見方です。

自動車について、決して楽観的に見てはおらず、下期は前回想定の水準に戻るぐらいと見えています。

質問者：国内のスプレッドの上期から下期にかけての回復について、立ち上がってくる電磁鋼板の効果や、国内中心にとおっしゃっていたスプレッド改善への取り組みなど、もう一度シナリオを確認したいです。

今年度は、年度が始まる前の2月に全鋼材の値上げという形でベースマージンの改善を打ち出していて、その後、為替や原料価格などが大きく動いたので、取り組みがやや私たちに見えにくくなっている部分もあるのかなと思います。

上期から下期に向けて、あるいはその次に向けて、維持できる取り組みが現時点でできていて、それがきっちり刈り取れるという見方をしておいて良いでしょうか。

17ページに主原料スプレッドという形で示していただいています。現状どこまで進捗が見えていて、一方で、今後、取り込まないといけない部分が何なのか、解説いただきたいです。

JFE：今期が始まる前に、労務費や輸送費が大幅に上がるだろうということも踏まえて、かなり前広に値上げを打ち出させていただきました。その当時、主原料も相当高いレベルでしたので、合わせて1万円で打ち出させていただきました。

しかし、ご存知のとおり、その後主原料価格が大きく低下したため、当初想定より値上げ幅が下がった形にはなっていますが、このようにプロアクティブに動くことで、労務費、輸送費についてもお客様のご理解をかなりいただいています。ただ、上期で全ては反映できず、下期に一部を刈り取るということで、その分も下期のスプレッドのプラスで見込んでいます。

質問者：エンジニアリング事業と商社事業は見通し変更なしということですが、商社業界では北米のパイプ事業などで、ややスローダウンの兆候が出てきているようです。今回、1Qの進捗を受けて、事業環境の見通しは変わってないでしょうか。今回、単に数字を見直してないだけなのか、見直した上で維持されているのかという観点で、もう一度解説いただけたらと思います。

JFE：商社事業の北米については、すでにある程度の影響が出てきており、ご指摘のあったパイプ等への影響も織り込んで見えています。

下期については、大統領選挙後にどうなるかなど、まだ分からないところもありますが、一方で、国内で緩やかな回復があるということや、先日買収した Studco の利益も下期に入ってくるので、それらを加味した下期の見通しとご理解いただければと思います。



2024年度4-6月⇒7-9月

JFEスチール

セグメント利益 ▲230億円内訳

(億円)

JFEスチール	2024年度 見通し			増減 4-6月→7-9月
	4-6月実績	7-9月見通し	上期見通し	
セグメント利益	315	85	400	▲230
棚卸資産評価差等除き	365	315	680	▲50

1. コスト	±0	
2. 数量・構成	+10	・粗鋼 548万t→580万t程度
3. スプレッド*	+50	・販価改善活動継続によりスプレッド改善
4. 棚卸資産評価差等	▲180	・棚卸資産評価差±0 (±0→±0) ・キャリアオーバー影響▲70 (▲130→▲200) ・為替換算差▲110 (+80→▲30)
5. その他	▲110	・工事時期差 等

* 諸物価(金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等)を含むスプレッド

Copyright © 2024 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

35

質問者：18ページの販売単価が1Qから2Qにかけて大きく下がるという点について質問です。輸出比率が上がるといったコメントもありましたが、この価格の下落の背景を教えてください。一方で、35ページ目の増減要因を見ると、スプレッドが50億円ほど改善する想定になっていますが、この考え方を教えてください。

JFE：1Qは輸出の汎用品の受注を抑えていましたが、2Qは最適生産体制をある程度意識しながら、例えば、黒皮とかスラブの中で、採算の良いものについては取っていかうということで、若干、量を増やしています。結果的に輸出比率が高くなっており、単価がその影響で下がっているということです。なお、下期については、国内、海外の自動車の回復などを踏まえて、輸出の汎用品を減らしていくという対応を取ろうと考えています。

JFE：35ページの数量・構成について、数量増で70億円ほどプラスを見込んでいます。一方で、輸出比率が高くなって構成が悪化することによるマイナスを見込んでおり、結果として、10億円のプラスになっているということです。したがって、構成の悪化が平均販売価格に大きく影響し、結果として、2Qは13万2,000円程度になっているということです。スプレッドについては、主

原料価格が下落する中、国内の販価改善活動により、原料価格ほど販価が下がらないため、50 億円の改善を見込んでいます。

質問者：今回、鉄鋼事業は事業利益および棚卸資産評価差等除きでも下方修正されましたが、期初の想定と比べると、上期がかなり下振れて、下期の見通しは変えていないということでよいか確認させてください。

JFE：ご指摘の通りの考え方です。期初の段階で年明けに発覚した自動車の認証問題等は織り込んでおり、海外のインドネシアやタイの環境も上期は少し厳しめで考えておりました。一方で、さらなる自動車の認証問題で上期の出荷量が落ちていることや、JSW の決算については、期初に想定できてなかった一過性の影響が出たということです。下期については期初想定とあまり変わっていないと思っています。

質問者：17 ページについて、輸出汎用品のスプレッドの下期前提はどの程度でしょうか？もともとの前提と合わせてご教示ください。

JFE：輸出スプレッドにつきましては、当初の見通しから大きく変わっておりません。現在、100 ドル～150 ドルを推移しているということで、下期も同様の水準で見えており、あまり上期、下期で大きな変化はないという前提です。前回公表時もそのような前提でした。

質問者：配当について、今期の業績予想を配当性向 3 割で計算すると配当は 100 円弱といった水準になります。それに対して、今回 110 円の配当を維持した背景と、今後の配当減のリスクがあるかどうかについてご教示ください。

JFE：配当につきましては、当社の配当方針である配当性向 30%程度にのっとなって決定しております。今回の年度の見通しに対しては配当性向は 30%を若干超えますが、それがあつる程度の範囲内であれば、変更はないということです。

質問者：1Q は自動車の減産影響があつた一方で、その減産分を輸出で補うようなことをしていなかったと思います。この背景としては、マージンを確保したかつたということでしょうか？

JFE：おっしゃる通りで、量から質への転換の方針のもと営業活動を行つており、その結果です。

質問者：21 ページに、下期の棚卸資産評価差除きの利益見通しが 1,450 億円と記載されています。これを単純に 2 倍すると 2,900 億円となつて、これは中計で掲げていた 2,300 億円に対して大きく超過する見通しにも見えます。

もちろん、上下の段差等は考慮しなければいけないとは思いますが、下期の実力だけで見ると、相当利益が出るという印象があります。この下期の実力値について、御社がどのように考えているのかを教えてください。

JFE：下期についてはおっしゃるとおりで、もちろん年度で見なければいけないものでもありますが、当社として取り組んできた構造改革の効果、コスト削減の効果もきっちり出ておりますし、また販価の改善についての取り組みも進んでいるということで、仮に下期の実力を2倍したら中期の目標は十分達成しているレベルと見ております。

ここを一つのスタート点にして、次期の中期計画や、長期ビジョンに結びつけていきたいと考えております。

質問者：28ページの液化水素サプライチェーンに関して、マネタイズの方法と今後の公表のタイミングについて教えてください。

JFE：水素サプライチェーンについて、今後のスケジュールとしては、2028年度に設備建設を完了いたしまして、29年度に水素運搬船の受け入れを行い、30年度に本実証を完了した上で、それ以降、国内水素供給を始めていくというのが今の計画です。

今回は実証化後の方向性について水素サプライチェーンへの参画などを書かせていただいておりますが、事業利用については、現時点では具体的に言えることはありません。ただし、京浜土地活用については、第8次中期以降での収益の柱の一つと考えておりますので、あらためて8次中期の公表時に今後の行方をご説明させていただきたいと思っております。

質問者：18ページの業績見通しのスライドについて、下期にかけて御社が想定されているような自動車向けの回復などが実現した場合には、鋼材輸出比率については、2Qで45%ぐらいまで高まったものが、また40%程度まで低下してくると考えてもよいでしょうか。

自動車用鋼板の数量の動きと鋼材輸出比率の動きについて、下期の見方を教えてください。

JFE：自動車用につきましては、国内だけではなく輸出もあり、輸出のほうも一定程度戻ってきますので、一概には言えないところもありますが、輸出比率は構造改革前が44~45%に対し、構造改革後の23年度の下期が41.5%、24年1Qも40.6%ですので、下期以降もそういった水準に戻っていくであろうと想定しています。

質問者：輸出の市況が厳しかったら、輸出量を減らすという考え方についてはいかがでしょう。

JFE：現在のようなマーケットであれば、汎用品をスポットで取りに行くというのは選択肢に入ってきません。

ただし、仮にマーケットが良くなり、輸出汎用品でも十分採算が取れるような状況になれば、これは当然取りにいくということで、状況に応じて対応したいと考えています。

質問者：先般、他社が中国での合併解消を発表しております。例えばGJSSは親会社と一緒にですが、御社としての中国のビジネスの今後の考え方を教えていただけますでしょうか。

JFE：他社の動向についてはもちろん承知しており、当社も中国については、個々のビジネスについて是非を判断しながら行っています。

中国は世界最大の自動車マーケットでありGJSSは自動車メーカーに高品質な自動車用鋼板を供給しています。もちろん、地政学のリスクや、米中関係の影響を受ける地域であるということは認識しておりますので、状況を注視しながら、対応していきたいと考えています。

ただ、今の段階で急に何らかの対応をとるということは考えていません。特にGJSSにつきましても、11年連続での黒字を達成しており、今年度も非常に厳しい環境でありながら、黒字を見込んでおります。従って、事業ごとに是々非々で判断していくということかと思っています。

司会：ありがとうございました。以上で質疑応答を終了させていただきます。

それでは、これもちまして、本日のインベスターズ・ミーティングを終了させていただきます。本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

[了]

本資料は当社の業績の状況について一般に公表するために作成された資料であり、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、日本国、米国又はそれ以外の一切の法域における有価証券への投資に関する勧誘を構成するものではありません。提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。